つながる子どもの育ち

改訂版

幼保・小一貫指導をめざして

平成２３年１２月

山口県子育て支援連携推進委員会

は　じ　め　に

幼児期は、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して人格形成の基礎を培う大切な時期であり、幼児期に培われた基礎は小学校以降の生活や学習の基盤となります。しかし、近年の社会的環境の著しい変化は、子どもの育ちや家庭に変化をもたらしており、「基本的な生活習慣の欠如」や「コミュニケーション能力の不足」「自制心や規範意識の不足」「家庭や地域の教育力の低下」といった幼児期の教育の課題や「小１プロブレム」など小学校生活への適応が難しい児童の実態が指摘されています。

こうした課題への対応を図るため、国においては平成１８年に改正された教育基本法において幼児期の教育の重要性が明示され、平成２０年３月告示の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」では、幼稚園と保育所の保育内容の共通化が図られるとともに、小学校との連携の重要性が明記されました。また、平成２０年３月告示の「小学校学習指導要領」においても幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、教員同士の合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図ることが規定されました。

このような状況を踏まえ、この度、山口県では、幼保・小一貫指導のための指導資料「つながる子どもの育ち」を改訂しました。「つながる子どもの育ち」は、平成１６年３月に策定され、就学前から小学校１年生までの発達段階において遊びや生活、学習を通して育てたい力や、それぞれの時期の発達に必要な環境構成、保育士や教師のかかわり方を示すとともに、幼児期の指導が学校教育につながる道筋やそれらを踏まえた小学校での学習指導について明らかにしており、これまで県内の幼稚園・保育所・小学校等で連続・一貫した指導を工夫し行う際の指導資料として活用されてきました。

改訂版では、現行の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」の趣旨を踏まえた見直しや、「子育て支援」「特別支援教育」における取組を新しい視点として加えました。また、山口県教育委員会が平成１６年度から実施している、小学校教諭を１年間幼稚園に派遣する「幼児教育長期研修」を経験した教諭による実践例も掲載し、幼保・小一貫指導の充実に向けた具体的な取組を示しております。

この「つながる子どもの育ち」改訂版の発行が、山口県における各地域の幼稚園・保育所等の幼児教育施設、小学校での連続・一貫した指導のさらなる充実に活用していただけることを期待しています。

平成２３年１２月

山口県子育て支援連携推進委員会
会長　相　原　次　男

目次

１　「つながる子どもの育ち」の改訂にあたって　・・・１

２　「つながる子どもの育ち」の育ちの姿　・・・７

３　「つながる子どもの育ち」の展開　・・１７

自分でできることは、自分でしようとする子ども

人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども

感性豊かで思いやりのある子ども

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども

４　「つながる子どもの育ち」の充実　・・４９

子育て支援

特別支援教育

幼児教育長期研修派遣教員からの報告

幼保・小一貫指導のためのＱ＆Ａ

1 「つながる子どもの育ち」の改訂にあたって

「つながる子どもの育ち」とは？

就学前の幼稚園や保育所から小学校への円滑な接続を図るために、子どもの育ちや学びを連続的に捉え、一貫した指導を行う際の手がかりとなる指導資料として平成１６年３月に策定され、これまで県内の幼稚園、保育所、小学校等で活用されてきました。

改訂の背景

① 平成１８年の教育基本法の改正において、幼児期の教育の振興が盛り込まれたことにより、教育機能の充実を図り、子育て環境の社会的な変化を踏まえて、子育て支援を含め、幼稚園や保育所の役割の見直しが求められています。

② 平成２０年３月に「幼稚園教育要領」が改訂されるとともに、「保育所保育指針」が改定されたことにより、保育所と幼稚園の役割や保育内容における共通化が図られ、小学校との連携の重要性が明記されました。

③ 平成２０年３月告示の「小学校学習指導要領」において、幼稚園や保育所との連携や交流を図ることが示されるとともに、指導計画の作成と内容の取扱いにおいて、幼稚園教育の内容との関連を考慮することが明記されました。

④ 平成１６年度から、山口県教育委員会において「幼児教育長期研修」が実施され、研修の成果を広く幼稚園・保育所と小学校の連携に役立てることが必要とされています。

連続・一貫した指導を行うために

① 幼児期から児童期にかけての発達特性の理解

② 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」に沿った幼稚園・保育所と小学校の指導内容と指導方法の理解

③ 各発達段階において育てたい力や経験させたい内容の整理

④ 一人ひとりに寄り添った支援を行うための手立ての理解
（子育て支援、特別な配慮を要する子どもへの支援など）

⑤ 幼児期の教育との接続を意識した小学校入学時のカリキュラムの理解

本書の活用にむけて

① 日々の保育、授業に活用（環境構成や保育士、教師のかかわり方等）

② 各種研修会の資料として活用（園内研修、校内研修、幼保小合同研修等）

③ 保護者に向けた子育て支援の資料として活用

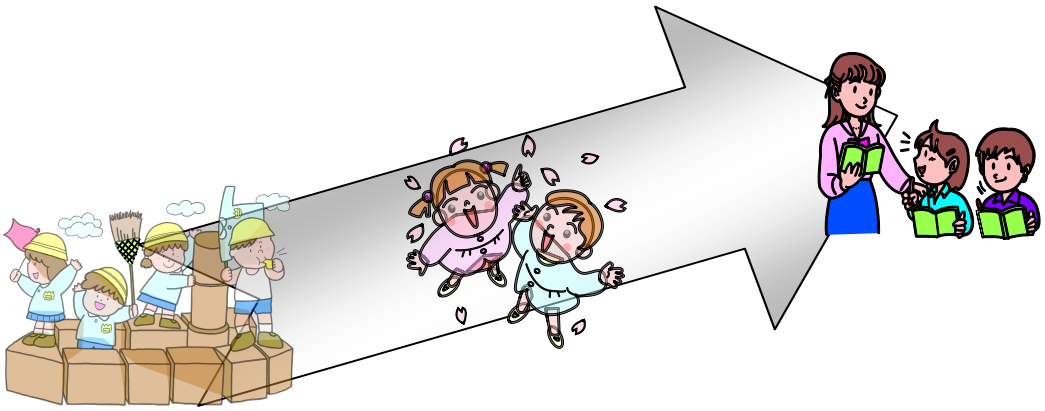
基本構想

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。

幼児期は、自我が芽生え、生活の場や他者との関係が広がり、それに伴って興味や関心を抱く対象も、生活の中で様々なものに向けられて広がっていく時期です。このため幼児期には、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して様々な対象とかかわり、幼児が十分に自己を発揮することが大切です。そのことを通して人とかかわる力、思考力や感性、表現する力などが育まれていきます。それは、人間として、社会とかかわる人として生きていくための基礎、つまり「生きる力」の基礎となっていきます。

また、幼児期の教育は、その後の学校教育全体の生活や学習基盤を培う役割も担っています。なぜなら、「生きる力」の育成は、幼児期からの連続性・一貫性のある教育の中で成立するものだからです。このため、幼児期の教育は、小学校以降の子どもの発達を見通した上で、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活の中で育てることが必要です。そのことが、小学校以降の生活や学習において重要な、自ら学ぶ意欲や自ら学ぶ力を養うことにつながります。そして、小学校においては、今の子どもの学びが幼児期にどのように育ってきたのかを見通した教育が求められます。

そこで、本書「つながる子どもの育ち」では、「生きる力」の育成をめざし、幼児期と児童期を通して育てたい子ども像を**『自分でできることは、自分でしようとする子ども』『人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども』『感性豊かで思いやりのある子ども』『表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども』**として掲げ、幼児期から小学校低学年にかけての発達段階において「育てたい力」を、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」を踏まえて示しています。またそれぞれの育てたい子ども像は、「知・徳・体」につながる内容になっています。



具体的な取組を紹介している「展開例」では、幼児期は自発的な遊びや生活自体が学びであり、総合的に発達していくという特徴を踏まえつつ、「育てたい力」「体験させたい活動」「保育士や教師の支援やかかわり」「小学校における教科・領域」を発達段階ごとに示すことにより、学校教育に引き継がれる道筋を明らかにしました。

また、近年の子どもの育ちの変化や社会の変化に対応し、子どもの人権の尊重を基本として一人ひとりに応じた支援や保護者に対する子育て支援の視点から、「特別支援教育」「子育て支援」「小学校におけるスタートカリキュラム」等の取組例も示しています。

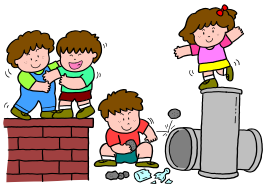
育てたい子ども像

自分でできることは、自分でしようとする子ども

主体的によりよく生きるためには、具体的な生活場面を通して一つずつ依存から自立に向かい、望ましい自己を形成していくことが大切になります。

そこで、自分の身の回りのことなどできるだけ自分の力でやろうとうする意欲を育て、できた満足感や充実感を味わいながら自立に向かうために、基本的生活習慣、健康安全な生活の仕方、身体機能などの増進を身に付けていく過程で整理し、その過程にふさわしい活動や保育士・教師のかかわり方を示すことにしました。

人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども



社会生活を営むためには、人と人とがよりよくかかわることが大切です。人とかかわる力は、まず、保護者や保育士、教師に対して信頼感をもつことから培われます。そして、人とかかわることで、友達のよさに気付き、共に活動する楽しさを味わっていきます。また、友達との遊びや集団生活を通して、約束やきまりの必要性に気付くなど規範意識も芽生えていきます。

そこで、身近な人に信頼感をもつこと、周りの人とのかかわりの中でしてよいことや悪いことに気付き、自分で考えながら行動すること、約束やきまりを守ること、集団の中で望ましい行動ができることなどを身に付けていく過程で整理し、その過程にふさわしい活動や保育士・教師のかかわり方を示すことにしました。

感性豊かで思いやりのある子ども

美しいものや崇高なものに感動したり、人の温かさにふれ喜びを共有したりする心を育てることは、人間の行動決定の原動力として大切なことです。

そこで、イメージを豊かにする力、命を尊ぶ心、感動する心、思いやりや感謝の気持ちなどを育む過程で整理し、その過程にふさわしい活動や保育士・教師のかかわり方を示すことにしました。

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども

幼児期における五感を通した体験によって育まれる好奇心・探求心は、自ら学び、自ら考え、生き抜く力の基盤となります。

そこで、自然や身近な事象から数量や図形、文字や記号、物の性質や仕組み、表現や創作に興味・関心を抱き、意欲的にかかわり、小学校の教科学習へとつながる過程で整理し、その過程にふさわしい活動や保育士・教師のかかわり方を示すことにしました。

『つながる子どもの育ち』の構想図

「生きる力」の育成

小学校

教科等の系統的な学習

小学校学習指導要領

自分でできることは、
自分でしようとする子ども

人とのかかわりを大切にし、
約束やきまりを守る子ども

感性豊かで
思いやりのある子ども

表現を楽しみ
学びに関心をもつ子ども

幼児期に培われる基盤

自立的な生活態度
『体』

人とかかわる力
『徳』

豊かな感性

学ぶ意欲
『知』

幼稚園・保育所

遊びや生活を通した直接的・具体的な体験

幼稚園教育要領・保育所保育指針

育てたい力

「育てたい子ども像」の実現に向け、「育てたい力」を項目で示しています。

【育てたい子ども像】	【育てたい力】
自分でできることは、自分でしようとする子ども	○　自分で考え、自分で行動する。 ○　健康な生活のリズムを身に付け、見通しをもって行動する。 ○　体を十分に動かして遊ぶ。 ○　あいさつや返事ができる。 ○　食事のマナーを身に付け、食べることを楽しむ。 ○　排泄の習慣を身に付ける。 ○　衣服の着脱ができ、清潔にする習慣を身に付ける。 ○　物の後始末や身の回りの整理整頓をする。 ○　危険なことが分かり、安全に気を付けて生活する。
人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども	○　先生や友達とかかわり、楽しく生活する。 ○　よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 ○　約束やきまりの大切さに気付き、守る。 ○　人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。 ○　みんなで使う物を大切にする。 ○　最後までやり遂げる意欲をもつ。
感性豊かで思いやりのある子ども	○　身近な自然に親しみ、美しさや不思議さなどに触れ、興味や関心をもつ。 ○　生活の中で美しいものや心動かすものに触れ、イメージを豊かにする。 ○　友達に親切にし、思いやりのある行動をする。 ○　絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わう。 ○　動植物などとかかわり、命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。 ○　身近な人や地域の人などに、親しみや感謝の気持ちをもつ。
表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども	○　身近な物の性質や特徴に気付く。 ○　身近な物に関心をもち、考えたり試したり工夫したりする。 ○　感じたことや考えたことを自分なりに表現する。 ○　音楽に親しみ、歌ったり演奏したり身体で表現したりする。 ○　様々な出来事の中で感動したことを伝え合う。 ○　数量や図形に関心をもつ。 ○　文字や記号に関心をもつ。

2　「つながる子どもの育ち」の育ちの姿

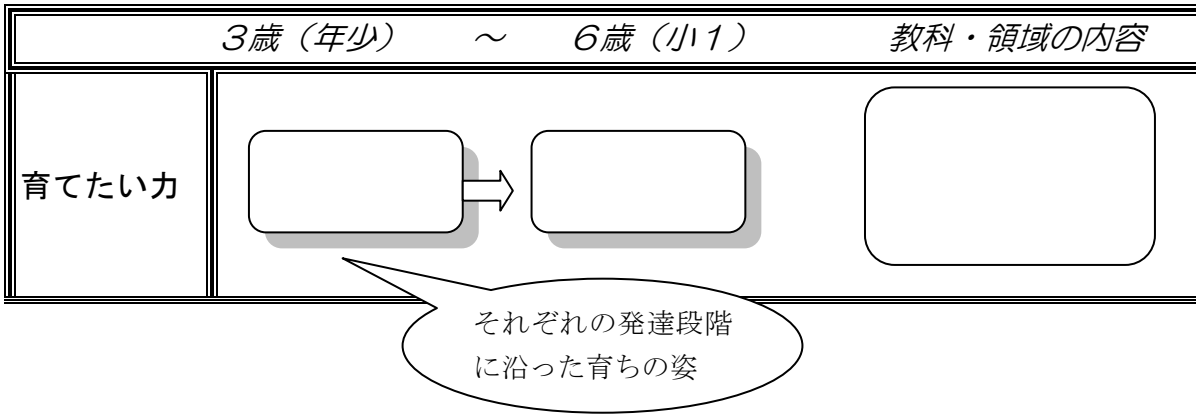
ここでは、「育てたい力」が身に付いていく過程を発達段階ごとに具体的な「育ちの姿」として表しています。

見方

1　それぞれの「育てたい力」ごとに、３歳（年少）から６歳（小１）までの発達段階に沿った「育ちの姿」を見開き２ページにわたり、示しています。
（８ページ～１５ページ）

2　「育ちの姿」の右端には、小学校低学年における教科・領域の内容を示しています。幼児期の「育ちの姿」が、直接小学校での教科・領域につながるわけではありませんが、小学校へのつながりをみる一つの視点として例示しています。

3　「育ちの姿」は、あくまでも一般的な姿であり、心身の成長の発達の過程は、それぞれ異なります。各幼稚園・保育所・小学校では、一人ひとりの子どもの育ちに沿った支援を行うことが大切です。



育ちの姿

自分でできることは、自分でしようとする子ども

育てたい力	3歳（年少）	4歳（年中）
自分で考え、自分で行動する。	自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。	友達とかかわり合いながら遊びを楽しむ。
健康な生活のリズムを身に付け、見通しをもって行動する。	食事・遊び・睡眠など生活のリズムを知る。	食事・遊びなどの生活のリズムに慣れ、自分がしたいことを見つけて取り組む。
体を十分に動かして遊ぶ。	いろいろな遊びの中で体を動かすことを楽しむ。	十分に体を動かし、様々な遊具や用具を使った運動や遊びを楽しむ。
あいさつや返事ができる。	先生の声かけを聞いてあいさつや返事をする。	日常生活に必要なあいさつをしたり、元気よく返事をしたり、みんなの前で自分の名前を言ったりする。
食事のマナーを身に付け、食べることを楽しむ。	先生や友達と一緒に食べることを楽しむ。	食事のマナーを知り、みんなと一緒に食べることを楽しむ。
排泄の習慣を身に付ける。	トイレの使い方を知り、自分で排泄する。	トイレの使い方が上手になり、排泄する習慣を身に付ける。
衣服の着脱ができ、清潔にする習慣を身に付ける。	先生の手助けを受け、自分で衣服を着脱する。 先生の手助けを受け、手洗い・足洗い・鼻かみなどをする。	自分で衣服の着脱をしたり、汚れたら自分で着替えたりする。 自分で鼻をかんだり、顔や手足を洗ったりする。
物の後始末や身の回りの整理整頓をする。	決まった場所に決まった物を片付ける。	自分の物や使った物の後片付けを進んでする。
危険なことが分かり、安全に気を付けて生活する。	先生と一緒に行動する中で、危険な場所や遊びに気付く。	危険な物や場所が分かり、遊具や用具などの使い方に気を付けて遊ぶ。

自分でできることを、自分でしようとする子どもを育てるためには、自分なりに考えて、自分の力でやってみようとする意欲を育てることが大切です。こうした意欲は、愛情に支えられた安全な環境の下で、子ども自身が、明るくのびのびと行動し、充実感を味わうことによって培われていきます。そのためには、子どもの自発性を温かく見守り、自分でできるようになった喜びを感じさせることが大切です。

5歳（年長）	6歳（小1）
自分なりに考え、友達と役割を分担し、協力しながら遊んだり生活したりする。	自分なりに考えて行動し、進んで学習や活動に取り組む。
集団生活のリズムが分かり、見通しをもって遊びや生活に取り組む。	小学校での生活の流れが分かり、時間に合わせて行動したり、見通しをもって学校生活を送ったりする。
友達と一緒に体を十分に動かしながら、様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	簡単なきまりや活動を工夫して、様々な運動遊び・ボールゲーム・水遊び・表現リズム遊びなどに楽しんで取り組む。
誰に対しても気持ちのよいあいさつや返事を進んでし、みんなの前で自分の思ったことを話す。	あいさつの大切さや時と場に応じた言葉づかい・動作が分かり、いろいろな人と接する。
食事のマナーを身に付け、自分の健康に関心をもって、様々な食べ物を進んで食べる。	自分にあった量を調節し、時間内に楽しんで食べようとする。 準備や後片付けを進んで行う。
トイレの使い方が上手になり、排泄後、上手に後始末をする。	衛生的なトイレの使い方が分かり、学校の生活時程に合わせて排泄する習慣を身に付ける。
気候や活動に応じて衣服を調節する。 うがい・手洗い・歯磨きなどの大切さが分かり、進んで清潔にする。	活動内容に応じて自分で衣服を調節する。 うがい・手洗い・歯磨きなど、必要に応じて体や身の回りを清潔にする。
用具や道具を種類別に片付けたり、ゴミ拾いをしたりする。	身の回りの物を次に使いやすいように整理整頓する。 掃除の手順や道具の使い方が分かり、進んで掃除をする。
遊び方や遊具・用具の使い方によっては危険が生じることを知り、きまりを守って安全に遊ぶ。	登下校や学校生活での危険な場所や行動が分かり、安全な行動を考える。

教科・領域の内容（低学年）

【生活】
・自分の１日の生活を見直し、規則正しく健康に気を付けた生活を考える。
・学校探検を通して、施設の使い方やきまりが分かり、安心して遊んだり生活したりする。
・通学路の様子やその安全を守っている人々のことを知り、安全な登下校ができる。

【体育】
・運動に進んで取り組み、誰とでも仲良く安全に気を付けながら運動する。
・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な運動ができるようにする。

【道徳】
・気持ちのよいあいさつ、言葉づかい、動作に心がけて明るく接する。

【学級活動】
・給食の約束やマナーが分かり、楽しい雰囲気の中で食事をする。
・みんなが気持ちよくトイレを使うために大切なことを話し合う。
・体をきれいにすることの大切さが分かり、自分できれいにする。
・掃除などの当番活動の役割と働くことの大切さが分かる。

育ちの姿

人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども

育てたい力	3歳（年少）	4歳（年中）
先生や友達とかかわり、楽しく生活する。	先生や友達と過ごすことを喜んだり、一緒に行動しようとしたりする。	好きな遊びを楽しみながら相手の気持ちに気付き、一緒に楽しく遊ぼうとする。
よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。	友達が嫌がったり泣いたりする様子から、友達の気持ちを知り、してはいけないことに気付く。	友達が泣いたり困ったりしていたら、自分の気持ちを抑えたり我慢したり、自分なりに手助けしようとする。
約束やきまりの大切さに気付き、守る。	遊びや生活の中で、順番を待ったり、譲ったりする気持ちをもつ。	遊びや生活の中で、順番や交代などの約束やきまりを守ったり、友達に教えたりする。
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。	先生に自分のして欲しいことや困ったことを言葉で伝える。	先生や友達の話を聞き、友達に自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりする。
みんなで使う物を大切にする。	自分で取り出したり片付けたりすることを通して、自分の物と人の物を区別する。	一緒に遊ぶことを通して、自分の物と人の物とみんなで使う物の区別をする。
最後までやり遂げる意欲をもつ。	自分でできることに取り組み、できたことに満足する。	自分でできることや先生や友達に励まされてできたことに満足し、自信をもつ。

子どもたちは、人とかかわることを通して、自分の存在感や他の人々と一緒に活動する楽しさを味わうとともに、他の人に共感したり、思いやったりするようになります。幼児期において、集団生活を通して、体験を重ねながら培われる規範意識の芽生えが、小学校以降の集団や社会の様々な規範を身に付けることにつながります。さらに、きまりを守るなど、生活のために必要な習慣や態度を身に付けていくことが、人とかかわる力を育てることになります。

5歳（年長）	6歳（小1）
仲間意識が強まり、友達と考えを出し合ったり、工夫したりして、遊びをより楽しくしようとする。	友達と共に物事に取り組む中で、お互いに助け合いながら、自分のよさに気付き、自信をもって生活する。
友達とのけんかを経験しながら、よいことと悪いことを、自分なりに判断したり友達に相談したりして、解決しようとする。	様々な場面で、よいことと悪いことの区別をし、悪いと思うことはせず、よいと思うことを進んで行う。
みんなで楽しく遊んだり、生活したりするためには、約束やきまりを守ることが大切であると気付き、自分から守ろうとする。	約束やきまりを守る必要性に気付き、場や活動に応じて行動する。
聞くときと話すときの区別ができ、人の話を聞いたり、自分の思いを相手に分かるように話したりする。	場に応じた話し方や聞き方が分かり、人の話を最後まで聞いたり、相手に伝わるように話したりする。
一緒に遊ぶことを通してみんなで使う物を譲ったり、分けたり、一緒に使ったりする。	みんなで使う物や場の使い方が分かり、それらを大切に使う。
難しいことでも、満足のいくまで取り組み、やり遂げる楽しさや満足感を知る。	めあてをもって最後まで物事に挑戦し、達成感を味わったり、次のめあてをもったりする。

教科・領域の内容（低学年）

【国語】
・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く。
・相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す。

【生活】
・ 集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考える。
・みんなで使う物や場所、施設を大切に正しく利用できるようにする。

【道徳】
・友達と仲良くし、助け合う。
・よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。
・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。

育ちの姿

感性豊かで思いやりのある子ども

育てたい力	3歳（年少）	4歳（年中）
身近な自然に親しみ、美しさや不思議さなどに触れ、興味や関心をもつ。	戸外に出て、身近な草花や小動物に親しむ。	散歩に出かけるなど、園内外の自然と積極的にかかわり、遊びを楽しんだり、季節の移り変わりを感じたりする。
生活の中で美しいものや心動かすものに触れ、イメージを豊かにする。	歌を聴いたり、園内の掲示物を見たりして楽しさや美しさを感じ取る。	音楽や造形作品の楽しさや美しさを感じ取ったり、劇などを見て、自分なりのイメージをもったりする。
友達に親切にし、思いやりのある行動をする。	友達と触れ合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。	友達とのやり取りを重ねる中で、相手の喜びや悲しみに気付く。
絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わう。	先生のお話を喜んで聞いたり、絵本の読み聞かせなどを楽しんだりする。	お話や絵本の読み聞かせを聞いたり、ごっこ遊びなどをしたりして、イメージを広げる。
動植物などとかかわり、命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。	身近な生き物を見たり、触れたりして、驚いたり、喜んだり、親しみをもったりする。	身近な生き物に興味や親しみをもつとともに、優しく接する。
身近な人や地域の人などに、親しみや感謝の気持ちをもつ。	身近な人に親しみをもつ。	行事や活動を通して地域の人と触れ合い、親しみをもつ。

豊かな感性は、子どもたちが、身近な環境や生活の中で、美しいものや優れたものに心動かされたり人の優しさや温かさに触れ感動したりする体験の中で培われていきます。また、その感動を友達や周りの人と共有することで、より一層磨かれていきます。教師は、感動を引き出せる自然や音楽、絵本や物語などの環境を整え、子どもの感動をしっかりと受け止め、認めていくことが大切です。

5歳（年長）	6歳（小1）
身の回りの自然物を生活や遊びの中に取り入れ、工夫して遊び、その楽しさや美しさ、不思議さに気付く。	身近な自然物を見たり触れたりして、遊びや生活を工夫したり、楽しんだりして、自然の美しさや不思議さに関心をもつ。
音楽活動や造形活動、劇等を通して自分なりのイメージを広げたり、友達と一緒に表現したりする。	学習や生活の中で、自分なりのイメージを豊かにしたり、自分や友達の作品の美しさやよさを感じたりする。
困っている友達や年下の子どもに対して手助けをしたり、優しい言葉をかけたりする。	友達や周りの人の気持ちを理解し、励ましたり、助け合ったりするなど、思いやりのある行動をする。
絵本に親しみ、ストーリーのおもしろさや楽しさ、温かさ、悲しさなどを感じ取る。	絵本や教科書の物語などに親しみ、想像を広げたり、おもしろさや優しさ、悲しさなどに心動かされたりする。
園庭の花壇や鉢に植えた草花に水をやったり、飼育している生き物に触れたり、餌をやったりして愛情をもつ。	生き物を飼育したり、草花を育てたりする過程で、生と死を目のあたりにして、動植物に命があることに気付き、大切に育てようとする。
お年寄りや地域の人々と触れ合い、人とかかわることの楽しさや感謝の気持ちをもつ。	自分たちの生活が周りの人々に支えられていることを知り、親しみや感謝の気持ちをもつ。

教科・領域の内容（低学年）

【国語】
・本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。

【生活】
・身近な自然を観察したり、利用したりして、遊びや生活を工夫したり楽しんだりするとともに、そのおもしろさや自然の不思議さに気付く。

【音楽】
・曲を聴いて、楽しさや美しさを感じ取る。

【図工】
・身の回りの作品などからおもしろさや楽しさを感じ取る。

【道徳】
・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接して、生命を大切にする心をもつ。
・身近にいる人々に温かい心で接し、感謝の気持ちをもつ。
・友達と仲よくし、助け合う。

育ちの姿

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども

育てたい力	3歳（年少）	4歳（年中）
身近な物の性質や特徴に気付く。	土や砂を触ったり、水を流したりして、それぞれの感触を楽しむ。	水と土、砂を混ぜるおもしろさを感じたり、水にいろいろな物を浮かべたり、風の動きに紙をとばしたりして、自然のおもしろさを楽しむ。
身近な物に関心をもち、考えたり試したり工夫したりする。	身の回りにある自然物や様々な素材や用具に触れ、興味をもつ。	身の回りにある様々な素材に親しみをもってかかわり、遊びに取り入れて楽しむ。
感じたことや考えたことを自分なりに表現する。	思ったことや感じたことを動作や言葉で伝えようとする。	好きなものをつくったり、かいたり、自分のイメージを動きや言葉で表現したりするなど、様々な方法で表現しようとする。
音楽に親しみ、歌ったり演奏したり身体で表現したりする。	季節の歌を歌ったり、聴いたり、手遊びをしたりして楽しむ。	伴奏に合わせて歌ったり、簡単なリズムに合わせて身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。
様々な出来事の中で感動したことを伝え合う。	信頼する身近な人たちと、会話をする喜びを知る。	先生や友達の言葉や話などをよく聞き、自分自身も思いを伝えることを喜ぶ。
数量や図形に関心をもつ。	生活や遊びの中で数量と出会ったり、様々な形に触れたりする。	先生や友達とのやり取りの中で、長さや大きさを比べたり、自然物の多様な形に触れたりしながら、数や形への関心をもつ。
文字や記号に関心をもつ。	くつ箱や道具箱などに貼られた自分や友達のマークや名前に気付き、親しみをもつ。	身の回りにある様々な表示や文字などを意識し、その意味に気付く。

表現を楽しみ学びに関心をもつためには、子どもが自分から表現し、充実感や満足感を味わうことが重要です。また、子どもの興味・関心を引き出せる魅力的な環境とともに、身近な友達の存在も重要です。教師は、用具等の環境を整えたり、発達段階に合わせて活動の見通しを立て、子どもが表現する過程をしっかりと受け止めたりすることが大切になります。

5歳（年長）	6歳（小1）
水と土、砂の量の調節に気付き、いろいろな固さを試して楽しむ。 木の葉、木の実、雨だれなどの自然とかかわることで、季節を感じ取る。	水、土、砂などの性質を取り入れ、工夫して遊んだり活動したりする。 身近な自然を観察したり、四季の変化に気付いて生活を工夫したり、楽しくしたりする。
身の回りにある素材を使っていろいろなものを工夫してつくったり、遊んだりして楽しむ。	粘土や小枝、段ボール、クレヨン、絵の具等の材料、形、色から発想し、工夫して、かいたりつくったりする。
思ったことや感じたこと、イメージしたことなどを、絵や言葉や身体表現などで表す。	様々な表現活動を楽しみ、友達の表現のよさに気付いたり、取り入れようとしたりする。
歌を歌ったり聴いたり、曲の調子に合わせてリズムを打ったり、楽器を演奏したりして楽しむ。	音楽を楽しんで聴いたり、表現したりしながら、様々な音楽活動を楽しむ。
自分の思いや経験したことを相手に分かるように話したり、相手の思いを受け取ったりしながらやり取りを楽しむ。	経験したことや感じたことなどを順序に気を付けて話したり、質問したり答えたりして、伝え合う楽しさを味わう。
毎日の生活の中で図形や数だけでなく、前後、左右、遠近や時刻などにも関心をもつ。	数量についての感覚を豊かにし、簡単な計算、長さの比較、基本的な立体図形の特徴、物の位置関係などが分かる。
遊びを通して文字などで伝える楽しさを味わい、文字や記号の役割が分かる。	ひらがな、カタカナ、漢字を学び、本を読んだり、文章を書いたりする。

教科・領域の内容（低学年）

【国語】
・身近なことについて事柄の順序を考えながら話す。
・経験したことや想像したことなどについて文章を書く。

【算数】
・計算の意味や計算の仕方を、具体物、言葉、数、式・図などで表す。
・身の回りからいろいろな形を見つけたり、具体物を用いて形をつくったりする。

【生活】
・身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともにそれらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し考える。

【音楽】
・歌唱、器楽、音楽づくり等の活動を通して、音楽表現の楽しさに気付く。

【図工】
・身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に、感覚や気持ちを生かしながら、楽しくつくる。

【体育】
・身近な題材の特徴をとらえたり、リズムに乗ったりして、表現リズム遊びを楽しむ。